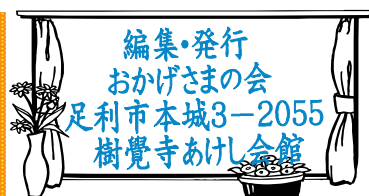


おかげさま



伝えたいこと

寒い冬だったせいか、少し暖かくなったなと感じられる

ようになったと同時に一気に桜が咲き、藤とぼたんが我れ先にと蕾みを膨らませ咲き始めました。

あっという間に、五月降誕会です。親鸞聖人のご誕生のお祝いの法要です。皆様も、身近な方々の誕生日のお祝いをされるのではないのでしょうか。にぎやかにされるか、慎ましくされるかはいろいろでしょうけれど、一年一年思われることは何かしらあるのではないかと思います。成長の喜び、一年何とか過ごすことが出来た喜び、夢、希望に向かって進めた喜び、などなど沢山の思いが込められた記念日だと思います。

◆ 以前に書いたことがあったかもしれませんが、年を重ねた方々はご存知と思います。もう亡くなられてしばらく経ちますけれど、映画評論家の淀川長治さんという、映画のお話しをされる姿がもう楽しくて、嬉しくてこんなにすばらしいものはないというように、身体一杯輝いている方でした。

その方が、「私の誕生日は、母に感謝の心を伝える日なんです」とおっしゃってました。私が今こうしていられるのは、母親が産んで下さったからで、



ありがとうございますという意味で、感謝の気持ちで母親に喜んでいただけることを毎年心掛けているとのことでした。

その言葉を聞かせていただいた時初めて、そうか誕生日は私のお祝いの日じゃなかったと、気づかされました。なんとずうずうしく

も我が事の喜びの日と思い、年を重ねて来たものだと、頭を打たれた思いがしました。その後もお恥ずかしいというか、情けないというか、体したこと出来ず、行かれる時だけさりげなく、心の内で「ありがとう」と、父母の好きな食べ物を持って、顔を見に行くくらいのことでしたが。

降誕会もある意味、同じことですね。親鸞聖人が、いかにこの‘いのち’を虚しく終わらせないで、往生できるかと仏法に問い、求め、お念仏のみおしえをお示し、お伝えくださったおかげさまにより、仏法に出会い我が身を照されて、私中心の身勝手な姿に気づかされ、他の広い世界がひらかれていきます。おかげさまでと、報恩感謝の喜びの法要なんですね。

私の‘いのち’は、私がつくりあげたものではないはずです。たくさんの

明 石 狸

お寺に生きること。あなたはどの様に考えますか。浄土真宗の寺に生まれたものとして、愚狸も御多分にもれず反発させていただきました。大人の考え方が反映されるのか子どもは結構残酷です。外見によるイジメ、職業による差別、etc. 決まり文句によってからかわれるのは日常茶飯事、「……、菓九層倍。坊主丸儲け」。夏休みの家族旅行は、予定が立てられない、お盆がある、留守にできない。二・三回行った記憶があるが、前日の夜に「明日山に行く、用意しろ」。泊まりも行き当たりばったり、終バスに乗り損ないトラックの荷台に乗車、いろいろあったね。中学の頃から、寺院子弟研修会が、家族旅行のない私の夏休みの旅行となり、行き帰りの計画も自分で。会場で同じような境遇のもの同士、日頃の憂さを…。その時、研修指導の先生から「予定通りにいかない世の中、予定を持たずに生きられるってとても素敵なことじゃない」と言われました。その時はよく分からなかったけれど様々なことを聞かせていただきました。お寺に生きるって、阿弥陀様を中心に歩まさせていただくことなんですね。南無阿弥陀仏の生活をしてゆくことなんです。一日の始まりは、雨戸を開ける、衆会鐘をつきお仏飯をあげ朝のお勤め阿弥陀様に朝のご挨拶。手を合わせて食事「いただきます」。戴き物は先ず阿弥陀様に、お下げして「いただきます」。親様とともに、お日様とともに……。





‘いのち’の繋がりからいただいた‘いのち’です。私だけのものでないということは、私は独りじゃない、たくさんのご縁に繋がり結ばれて、今こうして生きているんだと、気づかせてくださる方がいるということをお仏壇の前で仏さまにお礼申し上げる意からも、お参りされていると思います。

仏さまはいつも私をみていてくださっていますよと、手を合せてお参りすることを、小さな子ら、次の世代の方々にお伝え、おしめしいただきたいです。「何で？」の前に、手を合せお参りする形からお伝えいただけたらと思います。先頃のオリンピックで、フィギアスケートの羽生選手が、最終演技の後会場の観客の方々にお礼の意から、思わず手を合せておじぎをされていました。その姿を見た海外の方々が、久しぶりに日本の美しい姿を見、感動しましたと報道されました。手を合せお礼申し上げる姿は、日本に伝えられてきた慎ましい礼儀の姿勢だと思います。形を習うところに、心もそなわるのではないのでしょうか。

何かの折に随分前ですが、女優の浜美枝さんが、お子さんに正座がきちんと出来るように育てていますと書かれていました。なぜかというと、自分の大切な人が亡くなられた時、正座でお参りが出来ない人であっては悲しいのでと。形は大切なことだと思います。日常のこととして、是非手を合せてお参りすることを伝えていっていただきたいと思います。どうぞ寺に、お子さん、孫さん、次の世代の方共々にお参りください。降誕会はいろいろの楽しいおみやげもありますので、お誘いいただきお参りください。



あけし あれこれ

ハクビシン (白鼻芯)



去年は現れなかったハクビシンが、暖かさに誘われてか、朝の鐘を撞く頃に境内をのんびり気ままに散策しているようです。住職と出会っても、逃げもせず気にもかけず擦れ違っていくとのこと。まだ子どものハクビシンのように。いたずらをしなければ、別に構わないのですが、以前のように屋根

裏に入り、住み着いてしまうと水道管の保護材や電気のコードや壁など何でもかじってしまい、糞と尿とひどいことになります。

それに雑食なので、何でも食べます。いつぞやは、池のきんぎょを狸に食べられてしまいました。また食べられてしまったらと、心配ですし、やっとなら池や境内に住み着いた、おたまじゃくしから育てたがまがえるが食べられてしまったらと心配です。私たちの勝手な考えなのは承知ですが、境内でなく山に暮らしてほしいです。威嚇してくるハクビシンはこわいのですが、静かにしている大人の彼らはつややかな毛並みとモダンな配色で美しいですし、子どもの彼らはどんな生き物も同じように、かわいいんです。ごめんね、自然のなかで暮らしてね。

